

早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター

福島再生塾・開塾式

福島再生塾の目指すもの：福島から日本の未来を創る

松岡 俊二

福島再生塾・塾頭

早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)・所長

早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター長

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科・教授

[smatsu@waseda.jp](mailto:smatsu@waseda.jp)

2024年4月13日



松岡 俊二

福島再生塾 塾頭

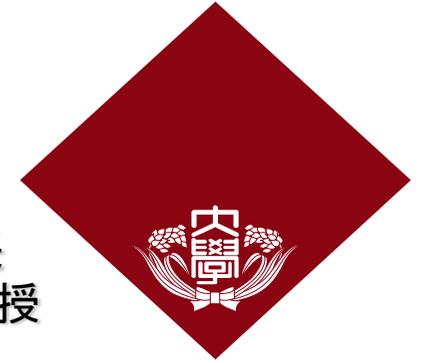
1F地域塾 塾頭

早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI) 所長

早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター長

早稲田大学国際学術院・大学院アジア太平洋研究科 教授

[smatsu@waseda.jp](mailto:smatsu@waseda.jp)



1957年 兵庫県豊岡市生まれ

1980年から京都大学大学院で地域開発政策を学ぶ

1988年から20年間 広島市に暮らし 広島大学で教える

2007年 箱根の関を越え 東京・新宿に暮らし 早稲田大学で教える

2011年3月 福島原発事故と福島復興の研究を始めて 13年が経過した



モンゴル・ゴビ地域調査(環境省・砂漠化対処事業: 2022年8月22日-31日)

## 福島復興の多様な選択肢を考える福島再生塾塾 「対話の場」＝「学びの場 (learning community)」のお願い

1. 全ての参加者は「〇〇さん」という「さん付け」で呼ぶようにお願いします。
2. 自分と異なる意見であっても否定をすることなく、なぜそのような意見が主張されるのかを、相手の立場に立って理解する努力をお願いします。
3. 福島再生塾を通じて「他者の靴を履く (put on someone's shoes) 能力」＝エンパシー能力を形成したいと思います。
4. 公平な対話の機会の実現のため、1回の発言は短く、長くても2分以内でお願いします。
5. 福島復興の多様な選択肢を考えるため、幅広く材料や情報を収集し、自分で学ぶことを大切にしましょう。
6. 報道関係者の取材があります。可能な範囲でご協力をお願いします。

# 第1回 福島再生塾プログラム・タイムテーブル

総合司会:五十嵐日和(福島再生塾・運営委員、株式会社ふたば・技師)

開会挨拶:13:30-13:50

山本育男(福島県富岡町・町長)

遠藤 智(福島県広野町・町長)

遠藤秀文(株式会社ふたば・社長)

小野田弘士(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科長、環境総合研究センター・所長)

基調講演:13:50-14:10

松岡俊二(福島再生塾・塾頭、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授)

「福島再生塾の目指すもの:福島から日本の未来を創る」

崎田裕子(福島再生塾・運営委員、環境ジャーナリスト)

「ふくしま浜通り・みんなで未来づくり基金」(仮)創設提案

座談会:14:10-15:20 司会:穂積香奈(福島再生塾・副塾頭、株式会社ふたば・主任)

遠藤秀文(福島再生塾・副塾頭、株式会社ふたば・社長)

山根辰洋(福島再生塾・副塾頭、F-ATRAs代表理事、双葉町議会議員)

林 誠二(福島再生塾・副塾頭、国立環境研究所福島拠点・研究グループ長)

小松和真(福島再生塾・副塾頭、広野町・復興企画課長)

大窪香織(福島再生塾・運営委員、JICA社会基盤部都市地域開発グループ・企画役)

竹原信也(福島再生塾・運営委員、富岡町・副町長)

鈴木貴人(福島再生塾・運営委員、ふたば未来学園高校・教諭)

鈴木里桜(福島県立ふたば未来学園・高校 2年)

佐々木一慧(福島県立ふたば未来学園・中学 2年)

(休憩:15:20-15:30)

対話の場:15:30-16:40 「対話の場」(司会:戸川、辻、木全、香中、日比、千田、崎田)

全体会:16:40-17:25 司会:大窪香織(福島再生塾・運営委員、JICA社会基盤部都市地域開発G・企画役)

閉会挨拶:17:25-17:30 松岡俊二(早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター・センター長)

# 2017年：早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンター設置 長期的・広域的視点から福島復興と廃炉を共に考え、議論し、政策提案をする

## 早大、原発被災地に研究拠点 福島・広野町で開所式

2017/5/25 16:06



早稲田大学は25日、東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故で被災した福島県広野町に研究拠点を開設した。現地の民間企業や自治体、学校などと連携し、地域社会の復興策をさぐる。設置期間は5年間。早大を中心に約20人の研究員らが、現地を調査する際に活用する。

新拠点は「ふくしま広野未来創造リサーチセンター」で、町の展示施設「ニッ沼パークギャラリー」内に設置。早大が国内外に設置を進める地域リサーチセンターとしては4カ所目となる。

センター長に就いた早大の松岡俊二教授は同日の開所式で「（震災から）6年を経た福島の復興・再生をセンターの活動を通じて考えていきたい」と強調。広野町の遠藤智町長は「福島の復興に向けて人材育成などで大きな力になる」と期待を示した。



画像の拡大

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターの開所式で話す松岡俊二センター長（25日、福島県広野町）

# 2018年：ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)

## 2050年の持続可能な福島浜通り地域社会の形成を提案

社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)は、2050年頃を目標に、常磐炭鉱(いわき)、広野火力(広野)、2F(檜葉・富岡)、1F(大熊・双葉)、伝承館(双葉)、復興祈念公園(双葉・浪江)、原町火力(南相馬)と、南から北へ続くエネルギー・原発・震災復興施設などを生かした「学びのネットワーク(エコミュージアム)」を形成する。「学びのネットワーク(エコミュージアム)」による地域の新たな学術文化芸術づくりと魅力づくりのため、国際芸術・学術拠点などを形成することで、21世紀の持続可能な福島浜通り地域社会の形成を構想する。

### ① 1F廃炉の先研究会：2019年7月

1F廃炉の将来像の多様な選択肢の研究開発と政策提案

→ 1F地域塾・開塾：2022年7月

### ② 国際芸術・学術拠点構想研究会 (A&S研究会)：2020年4月

→ 創造的復興研究会：2021年7月

福島浜通り地域の将来像の多様な選択肢の研究開発と政策提案

→ 福島再生塾・開塾：2024年4月



我々は何処から来たのか、  
我々は何者か、  
我々は何処へ行くのか



社会を変える変革者 (Innovator) の育成

# 福島再生塾のミッションとコンセプト

## 福島再生塾のミッション(使命)

長期的・広域的な観点から、双葉郡8町村や浜通りにおける原子力災害・複合災害からの持続可能な地域再生の理論と方法を調査研究し、福島原子力災害・複合災害の教訓を明確にし、福島から新たな地域再生モデル＝福島モデル(福島復興のメッセージ)を世界へ発信する。

## 福島再生塾のパーパス(志)

福島復興の抱える問題は「厄介な問題(Wicked Problems)」であり、「トランス・サイエンス的課題(Trance-Scientific Questions)」だからこそ、福島再生塾をつくり新たな知識を創造し、社会イノベーションを創出することに挑戦したい。

## 福島再生塾のコンセプト(機能)

1. シンクタンクとして福島再生塾(調査研究と政策提案)
  - ・民間主導モデルや公民連携の具体化
  - ・1F廃炉・2F廃炉と中間貯蔵施設の将来像と地域再生
2. 基金・財団としての福島再生塾
  - ・「ふくしま浜通り・みんなで未来づくり基金」(仮)創設の提案
3. 教育・人材育成組織としての福島再生塾(人材育成・教育、学びの場)
  - ・高等教育機関などの持続可能な人材育成の仕組み

# 福島再生塾のテーマ

## スタートアップ・テーマ

1. 復興と廃炉の両立・共生する「まちづくり」: 1F・2F廃炉と中間貯蔵施設と「まちづくり」
2. 人口減少社会における災害復興と地域社会の再生: 移住・関係人口と「まちづくり」
3. 復興と廃炉を対象とした広く、深い「学び場」の形成と人材育成

## 組織づくりも含めたテーマ

4. 原子力災害からの環境再生、廃炉産業と産業振興・観光振興、農林水産業の新たな展開  
→ 1F廃炉・2F廃炉や中間貯蔵施設などを「正の地域資産」へ転換する戦略の研究開発
5. 広域連携を可能にするアイデアや拠点形成(ふたば未来学園、伝承館、1F・2F、F-REIなど)  
→ 双葉郡8町村、浜通り13市町村の広域連携や復興と廃炉の人材育成を持続的に可能にするコンパクトな高等教育機関などの知的拠点整備の研究開発

## 福島再生塾の運営体制

塾 頭:松岡俊二(早稲田大学・教授)

副塾頭:遠藤秀文(株式会社ふたば・社長)

副塾頭:穂積香奈(株式会社ふたば・主任)

副塾頭:山根辰洋(双葉郡地域観光研究協会(F-ATRs)・代表理事、双葉町議会・議員)

副塾頭:林 誠二(国立環境研究所福島地域協働研究拠点・研究グループ長)

副塾頭:小松和真(広野町復興企画課・課長)

委 員:竹原信也(富岡町・副町長)

南郷市兵(大熊町学び舎ゆめの森・校長)

香中峰秋(とみおかプラス・事務局長)

鈴木貴人(ふたば未来学園高等学校・教諭)

猪狩 倫(株式会社ふたば・副社長)

五十嵐日和(株式会社ふたば・技師)

戸川卓哉(国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員)

辻 岳史(国立環境研究所福島地域協働研究拠点・主任研究員)

木全洋一郎(JICA北海道(帯広)・代表)

大窪香織(JICA社会基盤都市地域開発グループ・企画役)

崎田裕子(環境ジャーナリスト、1F地域塾・副塾頭)

日比賢二(東京電力福島復興本社福島本部・部長)

千田大介(東京電力浜通り廃炉産業プロジェクト室・課長)

# 福島再生塾キックオフの3つの「問い」と今後

## 3つの「問い」

1. 「まちづくり」の主演として、避難者・帰還者・移住者・支援者などを含めた幅広く多様な人々を位置づけるにはどうすれば良いのか？
2. 浜通りを魅力ある地域として再生するには、ジェンダー・バランスや多様性を「まちづくり」のプロセスの中で具体化することが不可欠ではないか？
3. 世界に冠たる赤字財政大国・日本でいつまでも国の財政に依存した「まちづくり」に持続性はなく、これからの「まちづくり」は民間主導モデルや公民連携モデルの具体化が必要ではないか？

## 第2回福島再生塾の予定

7月28日(日)に開催する第14回ふくしま学(楽)会との合同開催を考えたい。

## 今後の2年間(2024年度 & 2025年度)の重要性

第2期復興・創生期間(2021年度～2025年度)

復興知事業も2025年度に終了予定

2024年度と2025年度の2年間で、基本的な「型」を創ることが重要

「ふくしま浜通りの地域力創造」と  
「福島再生塾」の持続可能な発展に向けて

🌸「ふくしま浜通り・みんな未来づくり基金」創設提案

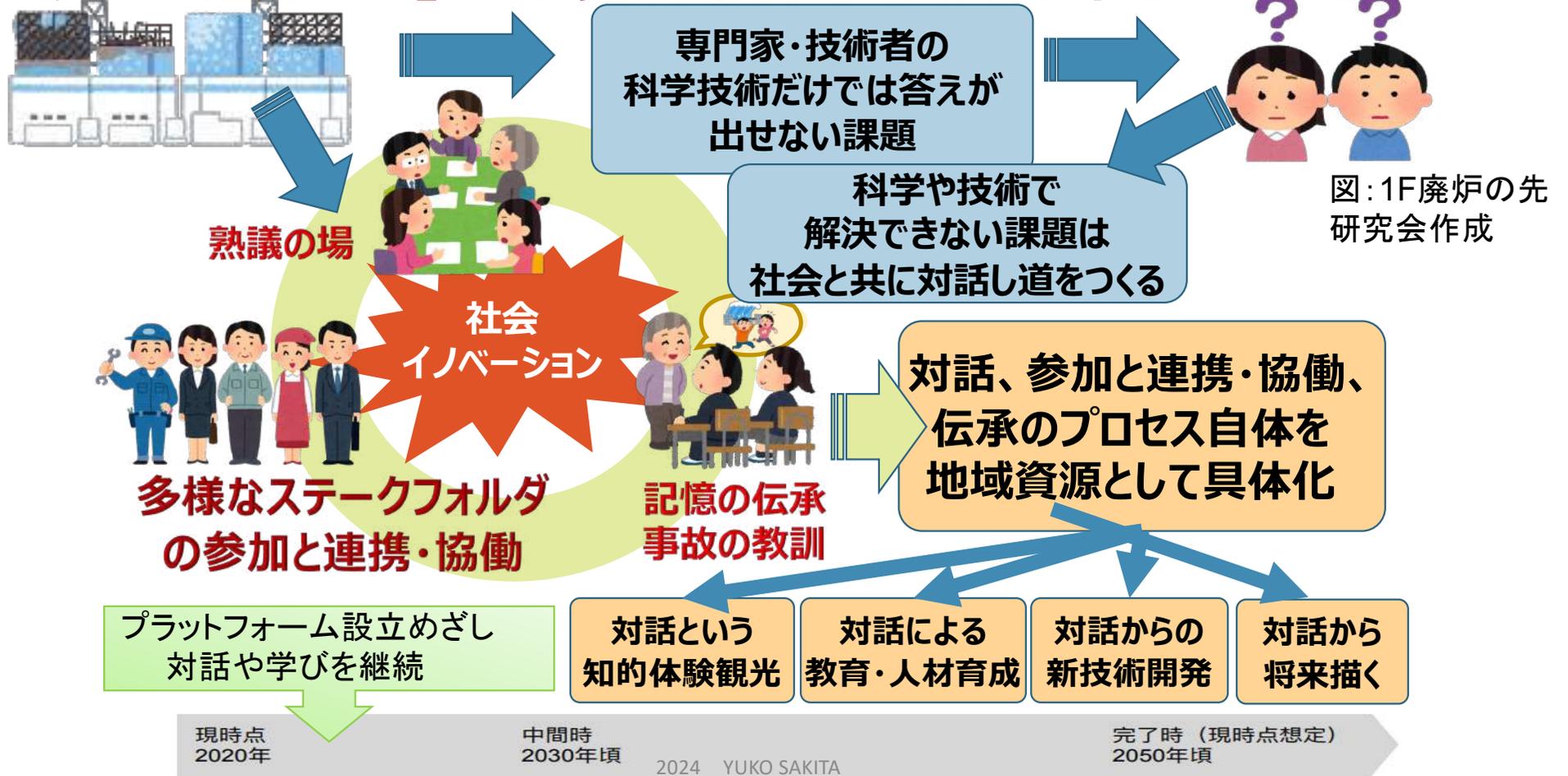


試案作成；崎田裕子 福島再生塾・運営委員、  
1F地域塾・副塾頭、1F廃炉の先研究会・副代表  
(ジャーナリスト・環境カウンセラー)

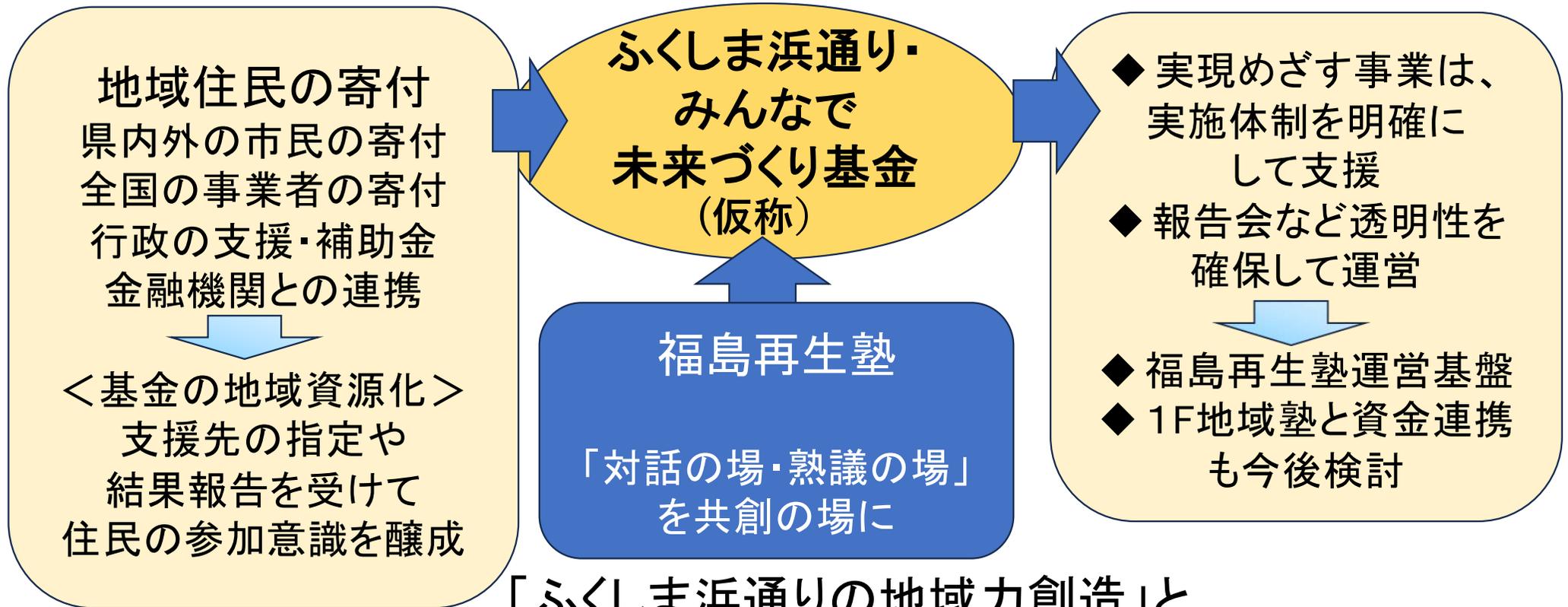
～2024年4月13日報告版～写真：4月6日、雨に負けずに咲く「夜の森」の桜🌸

2024 YUKO SAKITA

**「1F廃炉の先研究会」は、廃炉プロセスの地域資源化と復興の好循環めざし  
2019年にスタート。そして2022年に「1F地域塾」を開設。  
今「福島再生塾」は、より広い視野で地域の未来を共創する場に**



こんな地域にしたい！を実現する、コミュニティ・ファンド  
🌸「ふくしま浜通り・みんな未来づくり基金」創設提案



「ふくしま浜通りの地域力創造」と  
「福島再生塾」の持続可能な発展に向けて

# 「みんなで未来づくり基金」 創設ロードマップ(案)

下記ロードマップを素案として、4月13日「福島再生塾」キックオフで、検討PJを立ち上げてはいかがでしょうか。ご検討ください。

検討開始

2024年春ごろ

設立呼びかけ開始

2025年春ごろ

基金財団設立

2025年秋ごろ

- ★ 地域づくりの支援&実現方法として基金設立の可能性を検討。
- ・ 基金の目的
- ・ 仕組みの明確化
- ・ 信頼ある運営体制

- 一口3000円×1000口(案) 目標に、地域や県内外市民と全国の事業者に呼びかけ開始。
- ・ 基金の運営財団設立準備
- ・ 基金の支援PJの方向性を寄付者参加で検討

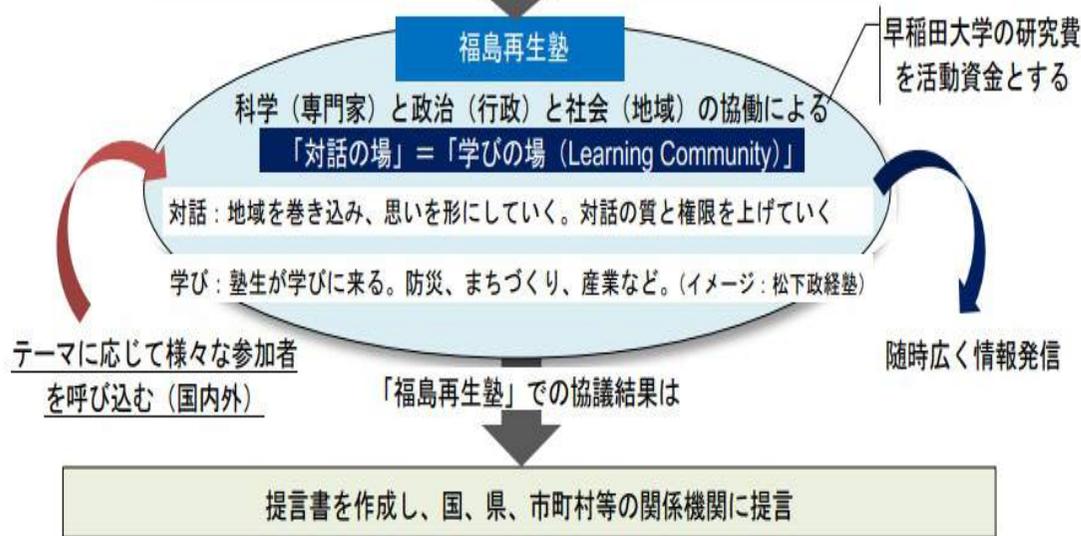
## 基金財団の設立

- ・ 支援の方向性明確化「新たな地域づくりPJ」&「再生塾の提案PJ」
- ・ 新たなPJの募集開始、選定へ

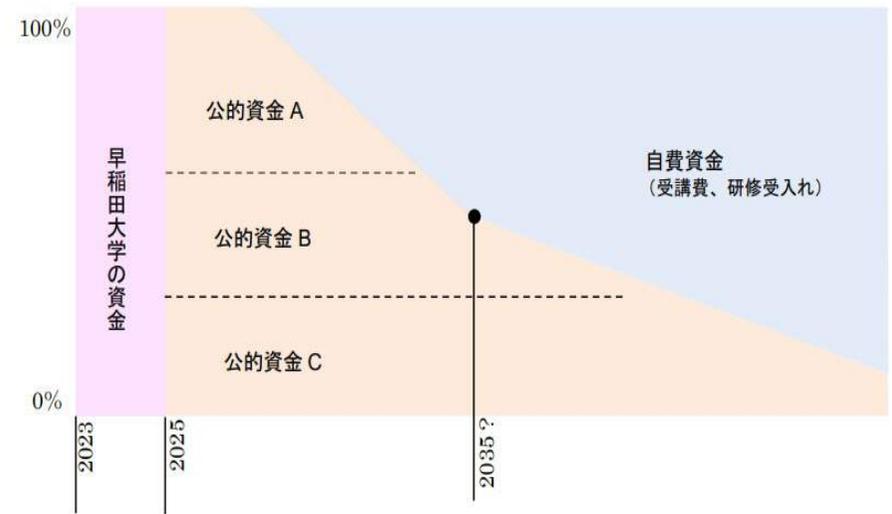
< 参考 > 2023年12月26日・2024年3月25日の運営会議に崎田提出

# 「福島再生塾」の持続可能なデザインに関する考察

原子力災害による長期避難からの  
まちづくり・地域再生の場に



課題は、福島再生塾を持続させるための資金をどう確保するのか



図：(株) ふたば(穂積・鈴木さん)作成資料より

帰還した方々、復興意欲を持って移住してきた方々、全国の応援したい方々が、  
主体的に参画し、共に考え行動する、持続可能な未来創造の場をどう創る

# 「ふくしま浜通り・未来共創基金(仮称)」 設立提案 ～みんなで未来づくり基金～

市民の寄付  
全国の事業者の寄付  
行政の支援・補助金  
金融機関との連携  
支援先指定や支援PJ  
報告で参加意識醸成

浜通り・みんなで  
未来づくり基金  
(仮称)

- ◆ 実現めざす事業は、実施体制を明確にして支援
- ◆ 報告会など透明性を確保して運営
- ◆ 福島再生塾運営資金
- ◆ 1F地域塾との資金連携も検討しては？

福島再生塾

科学（専門家）と政治（行政）と社会（地域）の協働による

「対話の場」＝「学びの場 (Learning Community)」

対話：地域を巻き込み、思いを形にしていく。対話の質と権限を上げていく

学び：塾生が学びに来る。防災、まちづくり、産業など。(イメージ：松下政経塾)

テーマに応じて様々な参加者を呼び込む (国内外)

「福島再生塾」での協議結果は

随時広く情報発信

図：(株) ふたば(穂積・鈴木さん)作成資料を活用して、崎田作成

提言書を作成し、国、県、市町村等の関係機関に提言

# 【参考事例】東近江三方よし基金

こんなマチにしたい！を実現するためのコミュニティファンド

ソーシャル・インパクト・ボンド（コミュニティビジネス・スタートアップ支援事業）

- 2015年度 検討開始
- 2016年度 設立準備会  
寄付呼びかけ
- 2017年度 一般財団法人設立  
(寄付金300万円の段階で法人化)
- 2018年度 公益財団法人に  
(基本財産一口3000円772人寄付)



支援者（個人・企業）



東近江三方よし基金



社会的事業者

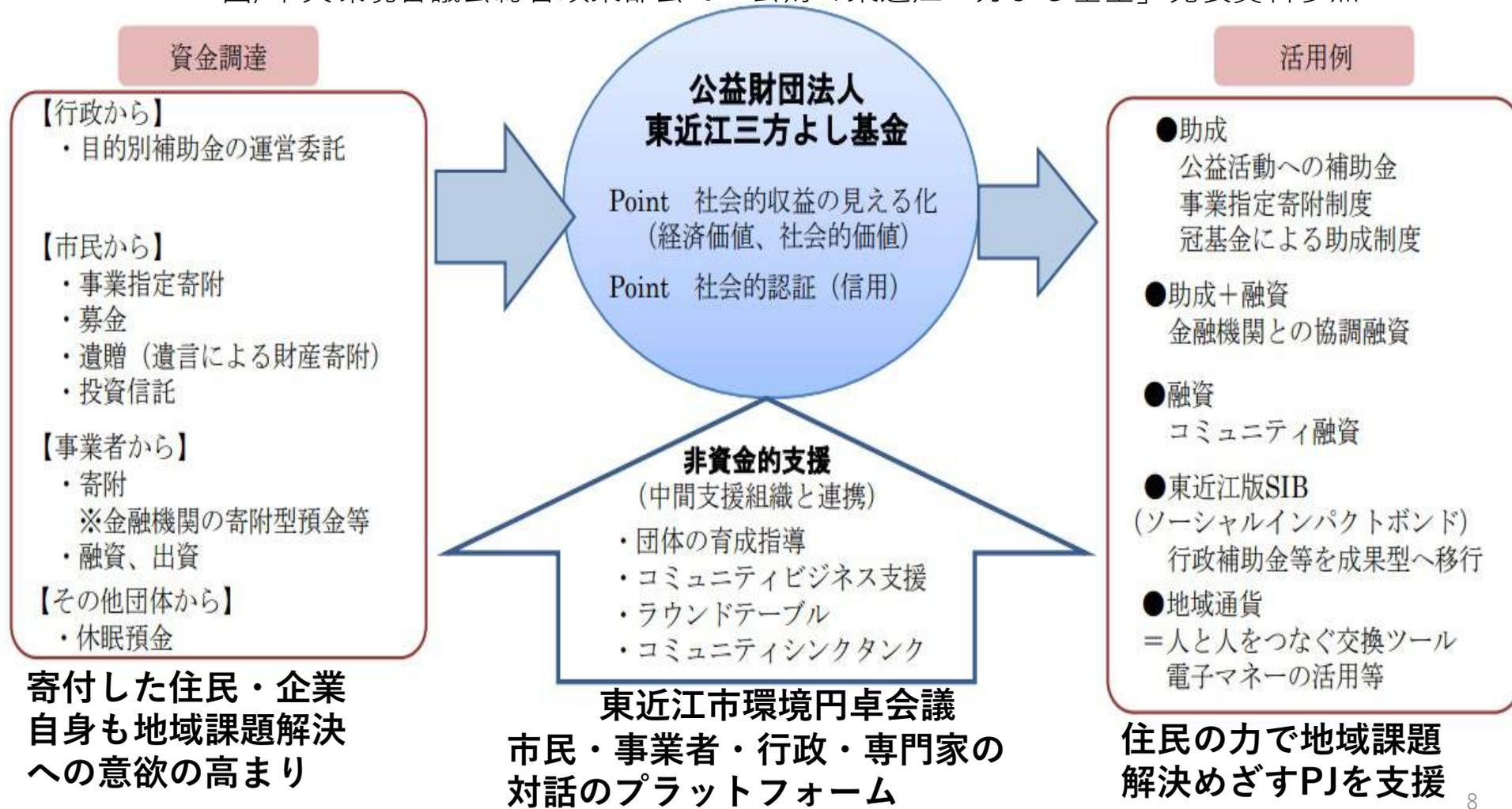


写真・図・資料/東近江三方よし基金HPより

循環し、より住みよいマチに。

# 環境・社会・経済課題を解決して、住み続けたい地域に

図/中央環境審議会総合政策部会での公財「東近江三方よし基金」発表資料参照



- 【行政から】
  - ・ 目的別補助金の運営委託
- 【市民から】
  - ・ 事業指定寄附
  - ・ 募金
  - ・ 遺贈 (遺言による財産寄附)
  - ・ 投資信託
- 【事業者から】
  - ・ 寄附
    - ※金融機関の寄附型預金等
  - ・ 融資、出資
- 【その他団体から】
  - ・ 休眠預金

- 助成
  - 公益活動への補助金
  - 事業指定寄附制度
  - 冠基金による助成制度
- 助成+融資
  - 金融機関との協調融資
- 融資
  - コミュニティ融資
- 東近江版SIB (ソーシャルインパクトボンド)
  - 行政補助金等を成果型へ移行
- 地域通貨
  - =人と人をつなぐ交換ツール
  - 電子マネーの活用等